

南予の牛鬼と鹿踊りについて

1年4組 古谷那瑠美

1年4組 木和田優衣

1年4組 岡野 佐和

指導者 教諭 加藤 哲夫

1 課題設定の理由

私たちの生活の中に馴染み深い秋祭り。秋祭りは古くから先人によって伝承され、現在でも各地で行われている。秋祭りは五穀（米をはじめ麦、豆、粟などの穀物が）豊穰（豊かに実ること）がもたらされるように、神に奉じたのが起源となっており、地域によって行われる祭礼の様式や出し物が違って来る。どうして地域によって祭礼の様式や出し物が違って来るのか、また各地でどのような特徴があるのかについて興味関心を抱いたため、研究テーマとすることに決めた。

2 牛鬼について

南予一帯に広がる祭礼の主役のひとつは牛鬼である。南予のどの地域でも、勇壮で迫力のある祭りの主役である牛鬼は、掛け声も勇ましく豪快に町を練り歩く。特に、宇和島の牛鬼は、夏の「宇和島牛鬼まつり」に大いに活躍し、県内でも大変有名となっている。

(1) 起 源

牛鬼の起源には諸説あり、その中でも広く知られているのは、豊臣秀吉が朝鮮に出兵したとき、武将の加藤清正が、城攻めに使った亀甲車という戦車の一種を起源とする説である。伝承によると、亀甲車は敵方の矢や投石から身を守るために作られたもので、兵が中に入る箱型の車の外側を牛の皮で覆い、敵を脅かすために棒をさした牛の首を飾っていたという。また、喜多郡と宇和郡の領主戸田勝隆の家臣であった大洲太郎が猛獣の襲来を防いだのが起りであるともいわれている。

(2) 形 態

宇和島の牛鬼は5～6メートルの牛をかたどった竹組みの胴体に、丸木でつくられた長い首と恐ろしげな鬼面の頭、剣をかたどった尻尾がついており、赤い布で覆われている。牛鬼が赤い布に覆われ始めたのは昭和の初めからで、それまでは棕櫚の毛で覆われていた。最近では牛鬼は棕櫚の毛で覆われているものよりも、布で覆われているものが主流となっており、色は赤だけでなく、緑、白、金など様々な色の牛鬼がみられる。牛鬼の長い首は可動式になっていて、左右上下に動かすことができる。南宇和郡の牛鬼の頭の型は、宇和島の型に比べて重量が重く、牛鬼の首の長さは必然的に宇和島の型より短い。

(3) 様 式

牛鬼は数十人の若者に担ぎあげられ、子供たちが吹き鳴らす「ぶーぶー」という「ブーヤレ」の音を立てて、長い首を打ち振りながら堂々と練り歩き、家ごとに首を突っ込んで悪魔払いをする。「ブーヤレ」とは竹の筒に穴をあけて、ほら貝のような音が出るようにしたもので、「かいふき」という呼び名もある。西予市明浜町の牛鬼では、外に出て担ぐ宇和島の牛鬼と違って、人が中に入って担ぐ。これは古くからの形を伝承しているとも伝えられている。そして、明浜の牛鬼の最大の特徴は、神事の前後に牛鬼がとろせましと暴れまわるところにあるそうだ。

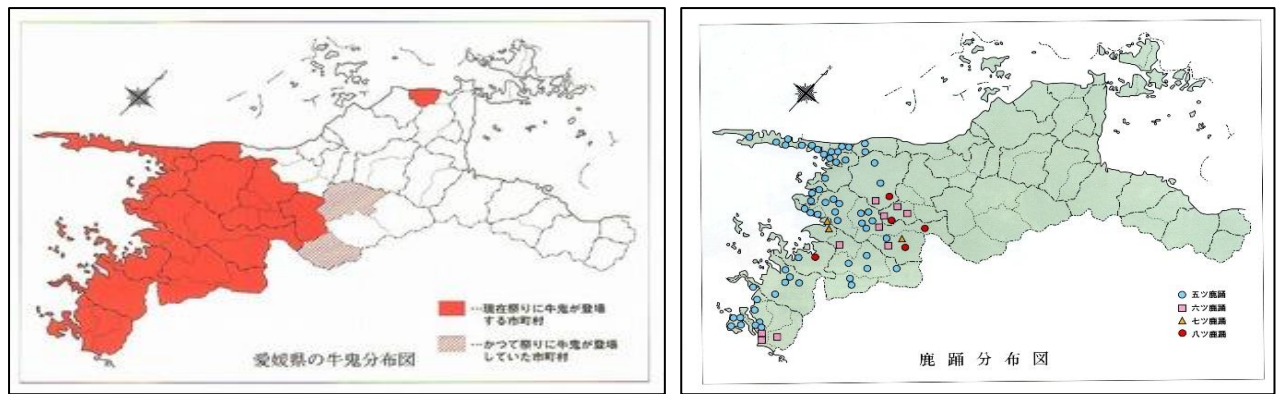


図1:愛媛県の牛鬼分布図(左)と鹿踊分布図(右) (出典:<http://blog.goo.ne.jp/uchikonotemae/>)

3 鹿踊りについて

古くからの伝統を伝え、受け継いできた鹿踊り。今や鹿踊りは南予の秋祭りには欠かせないものとなっている。

(1) 起 源

南予地方の鹿踊りは、江戸時代初期に宇和島藩初代藩主伊達秀宗が宇和島に入部した折に、仙台から伝えられたといわれているもので、源流は東北地方にあり、仙台周辺の鹿踊りと共通する点が多い。

(2) 形 態

宇和島の鹿踊りは、鹿の面を頭につけ、その面から垂れた布で上半身を覆い、太鼓を前に抱えて打ちながら歌い踊る「太鼓踊り」系の鹿踊りで、その源流は仙台にある。その中で、雄鹿たちが雌鹿を尋ね探して遂に発見して喜ぶ「めじしかくし」という踊りが、現在の宇和島では広く知られている。

(3) 様 式

踊り手の年齢は地域によってさまざまで、子供から大人まで幅広い。また、歌のリズムや歌詞にも違いがみられ、宇和島市の三浦天満神社では他の地域と違って6拍子という極めてまれなリズムで歌い踊られる。名称は「シカオドリ」「シシオドリ」「カノコ」等であるが、踊る人数によって「〇ツ鹿」と呼ばれることが多い。踊る人数は地域によって異なり、宇和島市や城川町窪野等では8人で踊る「八ツ鹿」、吉田町等では「七ツ鹿」、城川町下相等では「六ツ鹿」であるが、ほとんどは5人で踊る「五ツ鹿」である。

4 まとめと今後の課題

- (1) 地域によって祭礼の様式が異なる理由は伝承のされ方に違いがあるからだと考えられる。
- (2) 鹿踊りのリズムは三浦天満神社以外は4拍子で歌われ、踊られていることから、元は2拍子で歌われ、踊られていたと推測できる。
- (3) 今後の課題としては、南予だけでなく県内外の祭りを調べ、比べていくことが必要だと考える。

参考文献

- ・http://www.h4.dion.ne.jp/~toso504/renkei/sikoku/e_nanoyo_maturi.html
- ・<http://www.city.uwajima.ehime.jp/www/contents/1287559142976/>
- ・<http://www.uwajima.org/event/index2.html>
- ・<http://www.dydo-matsuri.com/archive/2011/uwajima/>
- ・<http://blog.goo.ne.jp/uchikonotemae/>